

詠む広場

毎日歌壇

懐を懐ける夕陽(山笑)
千葉市 青山希久子
鶯や取り柄無き身を悲嘆せず
小平市 岡崎よし子
海見えて遠足の列走り出す
浜松市 久野 茂樹
飛行機雲大瑠璃の声のびやかに
島田市 沢田 嘉乃

早起きの夫を待たせて着飾
小田原市 林 梢
のどかなり夫婦二人で立つ厨
仙台市 鎌田 傑
豌豆を剥く妻母に似てきたり
神戸市 岸下 庄一
風光る同じ歩幅のペアルック
伊丹市 稲本真由美

須賀川市 伊豆 周治
惜春や缶蹴りのカン忘れられ
川越市 大野有之介
街角に白き花浮き五月来ぬ
相模原市 小山 鞠子
夜桜や人みな星の瞳して
市川市 吉住 威典

北九州市 宮上 博文
葉桜や石垣だけの岡城址
奈良市 上田 秋霜
万緑や水面に映る彦根城
那珂市 小宅 進
病室の窓よりみおろすさくらかな
周南市 池田代志美

アプリで 推し短歌

な夕焼けど、家についてからもまだ
ほんのり光を残している。袋の中身も日
の光につかってなんだか幸せそう。
・腹にいるまだ飲み込める大きききみ
より空豆に似た胎児
・よろこびもかなしみもみな受け入れて空
どこまでもからっぽのまま くじらうち
・人生を悩み憂う日ほど空はバカみたい
にただ澄んでいて
眩しがる傾向
|| 次回のお題「雨」(6月22日掲載)

伊藤 一彦 選

いつからが晩年だろう庭へ出てひかりを描く
モネの白髪
東京 富見井高志

△評▽視力低下や家族の死に出会いながら
80代のモネは見事に絵筆をふるった。そんな
モネへの作者の感慨が上二句である。

パンに紅茶否珈琲と迷ひたる朝のひとときま
た今日が来た
枚方市 谷 亜希

△評▽変わらないように思える日々は幸福
なのか不幸なのか。さりげない上句が巧み。
ペタンコに漬れしうさぎのぬい包み大人にな
ってわたしの親友さいたま市 シェルマ恵理

もうすでに説明したから用済みと切り取り線
で捨てられる側
神戸市 前田 達生

許せると許せないとのせめぎ合い治りかけて
る傷は痒くて
松戸市 小林 里純

悪人が悪人の顔であらわれるドラマにならな
いドタバタをみる
名古屋市 田中 靖人

百万のはなびらふれば百万の声なき声の響き
わたれり
垂水市 岩元 秀人

あまつがせ船はあずまに流るれど船にも乗れ
ぬ雲の棧橋
奈良市 井畑 晴仁

音もなく滅びゆく日常がある水面はもう限界
まで張って
四万十市 佐竹 紫円

バス停のベンチに座る制服の少女の手話のは
ずむ花時
三条市 甘 辛

米川千嘉子 選

君の形をしたまま雲が流れてくなぞれなかつ
た右手の後悔
三重 中山由賀子

△評▽忘れたい人の横顔に似た雲だった
か。雲にも、そして「君」にも、心を隠さ
ずに手を伸ばせば良かったのに。

国が死の商人たるを是とする日街頭に鳩のフ
ザマな歩み
名古屋市 浅井 克宏

△評▽殺傷能力をもつ武器の輸出が原則可
能になった。ハトは平和の象徴だったはず。
初夏の溪間で揺れる釣橋は若葉の海を漕げ
るゴンドラ
取手市 武村 岳男

フダとペスト合併せる首都 プライドにハベス
トブダととう店名残る
横浜市 大建雄志郎

若い頃不正のニュース読むときのゆらぎ思ひ
出すとアナ深夜便
生駒市 奥田 充子

「藤井さん、三人で花見弁当を見つめ笑つた
ね」春来れば思ふ
坂戸市 納谷香代子

老いて今かくも生家の恋しきは帰業本能なの
かもしれぬ
米子市 永田富基子

山里にジャズ流しているカフェがある大病をし
た仙人が住む
日南市 宮田 隆雄

「にいちゃん」と呼んだら共に振り向いた娘
の長男と帰省の息子
高崎市 樋浦マサエ

缶コーヒー疲れ直しに飲みし日の辛さ過れど
甘きは懐かし
幸手市 中村 早苗

加藤 治郎 選

昨日から降り続く雨きつとまた誰かのコップ
が溢れたんだね
四万十市 佐竹 紫円

△評▽自由なイメージが楽しい。コップの
水があふれて雨になる。降り続く雨だから
空想が広がるのだ。口語の情緒がやさしい。

ゆっくりと杖つくきいとすれちがうがんばれ
前へ さみどりの風
東京 青木 公正

△評▽その高齢者はゆっくりとした歩みであ
る。思いが高まる。結句が爽やかである。
あどがきのようにミルクをあたたためて何もな
い日に暮をおろした
長岡市 三月 とあ

水床のような君の眼とていくおれは名前で
呼べてないのに
守口市 寺前 晴

めづるはる、ふくらむくさくさくさくさくまっ
あなたへ駆ける秋色のわたし
東京 稲山 博司

「へんしんはできません」注意書きのあり魔
法少女の杖の玩具に
登別市 松木 秀

騙されたつもりになってくさかんむり心に載
せる 生きてゆけそう
津市 川原田明子

帰宅して取り込むタオルは夕立の匂いを吸っ
て少し重たい
名古屋市 森本 有

耳も目も塞ぎたかったもそれがきみが静か
に触れる星でも
平塚市 芝澤 樹

伸びた影に飲まれそうになりました 空がこ
んなに晴れているから
東京 安 高良

水原 紫苑 選

十字路が十字架を横す黄昏はキリストの右脇
腹に立つ
千葉市 星野 珠青

△評▽十字路が十字架となるたそがれを見
た人は、キリストの右脇腹からあふれる血
と水を浴びて、詩の洗礼を受ける。

蝶のはばたきは貴方のまたたきに似て見つ
め合ふ鱗粉乱舞
甲府市 村田 一広

△評▽こんな不思議な恋もある。チョウとあ
なたは銀色の粉の中に入れ替わって舞う。
赦される準備はできているのです蛇口がずっ
と零すすずくに
安城市 唐澤 うに

カトラリーをつがはせながら春といふ美しき
獣の肉を分けあふ
東京 山野ゆかり

あひこの言葉は森の匂いまた文明が土壌で
あった日の
東京 境 千尋

鳴き声にならない程度に風が吹くいつか逢う
睡蓮の気配の
横浜市 永永 キヌ

殺意ばかりの春の午後 今日にはもう草一本も
踏みたくはない
町田市 古井 朔

空といふ布いちまいに覆はれて我らに夙き聖
五月来る
東京 吉岡 耕大

一心に私は歩く鬱々と密生された空の花へと
火は青いほうが熱いと知っているアイリス、
あなたの怒りは静か
岡山市 松井 度

岐阜 舟橋 いま

◇第17回田中裕明賞—板倉ケンタ・句集『一花
一虫』
◇第69回短歌研究新人賞—水本麻衣「いつも寝
顔を褒められている」(30首)、岡本恵「影の名
前」(30首)
◇第64回現代詩手帖賞—内田ウ3、木下太尾、
関根健人

詩歌便り

はがき1枚に選者を指定し、未発表の
投稿規定 自作を2首・2句まで。住所、氏名、年
齢、職業、電話番号を明記し、宛先は〒100-8051(住
所不要)毎日新聞学芸部、短歌は「毎日歌壇」、俳句
は「毎日俳壇」、○○先生(希望選者名)係へ。毎日新
聞デジタルの投稿フォーム(https://mainichi.jp/k
adan-haidan/)でも受け付けています。